

## 住宅の屋根雪処理チェックシート【設計者向け】〔モニタリング用第2案〕

Q 1 建設予定の住宅の屋根の形状は、AとBのどちらでお考えですか。

A＝**落雪住宅** →Q 2, Q 3, Q 4, Q 5, Q 9にお答えください

B＝**無落雪住宅**→Q 2, Q 3, Q 7, Q 8, Q 9にお答えください

⇒住宅の建設地の積雪は何mですか。【別シートの等高図で確認しましょう】

普通の住宅は積雪1m程度まで耐えられます。

1m以上の積雪には、屋根や敷地計画の配慮が必要です。

また、無落雪住宅の耐雪式屋根では、雪の重さに耐えられる構造が必要で、建設費の負担が生じます。

Q 2 屋根は、南側を長くして設計されていますか。

- ① はい
- ② いいえ
- ③ 考慮の必要はない

⇒屋根融雪のことを考えると、日照の関係から南側の屋根を長くすることをお勧めします。

Q 3 屋根に上れるか確認しましたか。

- ① 確認した
- ② 確認していない

⇒総二階建て住宅などのように上り口がない場合、高床式住宅のように屋根がより高い位置にある場合などは、専門家に依頼するよう施主に勧めて下さい。

Q 4 屋根雪が隣地境界線を越えて落雪しないことを確かめましたか。

- ① はい
- ② いいえ

予測される落雪飛距離 \_\_\_\_\_ m

確かめるのに要した資料

〔県の克雪住宅の手引き・各市町村の指導値・その他〕

⇒屋根雪が隣地境界線を越える場合には、屋根雪が隣地、道路に落雪しないための塀などの設置が必要です。

Q 5 屋根雪の落雪を阻害する可能性がある突起物がありますか。

- ① はい
- ② いいえ

屋根の部分と個数 [部分 個数 ]

Q 6 宅地内に落雪した屋根雪を処理するスペースはありますか。

- ① はい
- ② いいえ

⇒十分なスペースがない場合、宅地内融雪、融雪槽の設置も有効です。

または、屋根計画の見直しをしてみましょう。

Q 7 無落雪屋根の種類は、どのような方式によるものですか。また、各方式のメリット・デメリット及びメンテナンス方法について、施主に説明しましたか。

- ① 説明した
- ② 説明していない

※各屋根の方式の具体的な特徴については、内側のページをご覧ください。

[事務局注釈：未作成です。]

1：融雪式屋根

⇒融雪装置の設置費用と維持管理費用が必要ですので、融雪装置の方式の差異について、十分な説明を行って下さい。

1-1：電熱式

1-2：温水式

1-3：ヒートパイプ式

1-4：温風式

2：耐雪式屋根

⇒最大積雪や想定される滑落雪量に耐えられる設計、施工となるのか十分な説明を行って下さい。

2-1：M形屋根

2-2：フラット屋根

2-3：非滑雪勾配屋根

2-3-1：雪止め金具を付けた勾配屋根

2-3-2：立ちはぜの勾配屋根

2-3-3：粗面の屋根素材を用いた勾配屋根

Q 8 雪庇の形成について説明を行いましたか。

- ① 説明を行った
- ② 説明を行っていない

⇒雪庇は、耐雪式屋根の風下側で発生しやすいようです。住宅用地を購入する場合には、周辺住宅の雪庇の形成方位を確認したり、冬季の風向きを知っておくことが重要です。また、雪庇防止柵の設置も有効です。

Q 9 積雪障害を防止するため、断熱材の厚さ、気密措置、小部屋の換気措置について説明を行いましたか。

- ① 説明を行った
- ② 説明を行っていない

屋根または天井の断熱材の厚さ \_\_\_\_\_ mm

天井面での気密措置 [す る・しない]

小屋裏の換気措置・天井見付面積に対する小屋裏換気孔の面積比 [面積比 \_\_\_\_\_]

本チェックシートは、住宅を新築・改修する場合、設計業者・建築業者が屋根雪処理について自己点検したり、施主さんと打ち合わせする際の参考としてご活用ください。

打ち合わせを行った日時： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ 施主： \_\_\_\_\_ 様

会社名： \_\_\_\_\_ 住 所： \_\_\_\_\_

説明をした担当者： \_\_\_\_\_

【作成者】 やまがたゆきみらい推進機構屋根雪処理部会

995-0024 山形県村山市楯岡笛田四丁目5-1 電話 0237-47-8614

### 1.3 最大積雪深（平均）等高図

